

箕面市市民活動実態調査結果から

【調査結果の今後の活用方法について】

(1) 箕面市の非営利公益市民活動の実態を広く知ってもらう。

→みのお市民活動センターの Web サイト中で調査結果を公表

- ①関わろうとする市民に向けて、箕面市で活動する団体の基礎情報を公開
- ②団体の課題と現在試みられている解決策を紹介し、よりよい解決策へのヒントや解決策についての開かれた議論を促す。

(2) 見えてきた課題から具体的な中間支援策を検討し、実施する。

【多くのNPOが抱える課題】

「人」に関する悩み（人材育成、ボランティアや会員募集など）が圧倒的多数

- ①活動に関わる人（参加者、会員、ボランティア等）を募集・獲得することが難しい。
 - 対象になりうる人に情報を届けられていない（知られていない。）。
 - 高齢化や対象者の環境の変化によりかかわる人が縮小傾向
 - 関係者のすそ野を広げられないため、コア人材の育成・確保にも影響

②活動を支える人材のリクルーティング・育成

- 特に、活動の中心を支える役員・事務局メンバーの新陳代謝が進んでいない実態（活動・役割が属人化しており移転できない、育成すべき新しいメンバーがいない。）
- ※活動を続けているうちにメンバーは年を重ねるため、必然的に高齢化していく。

【市や市民活動センターに求められていること】

アンケートからは、活動の安定化（あるいは「一般化」）のための要望も複数見られる。

- (例) ・活動の周知・広報の援助（市広報等、市がもつ情報チャンネルの活用等も）
 - ・公共施設の優先的（先押さえ）利用、設備の充実
 - ・継続的な資金援助
- …等

【市民活動センターとしての支援策について】

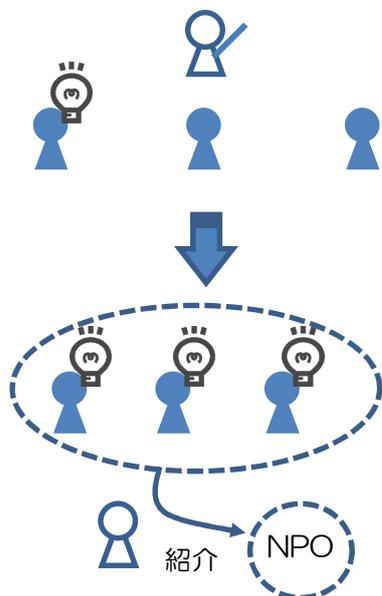
団体からの要望には、市民活動センターとしては、直接要望のとおりに応えることは難しいものも多い。以下の視点から、中間支援を行う機関としての取組みを考える。

- ①団体が、抱える課題を解決できる力を獲得することを支援（団体のエンパワメント）
- ②団体が、課題解決に役立つ資源にアクセスできるよう支援（「つながる」を支援）

（支援策のより具体的なイメージは、次項）

【支援策のイメージ（案）】

団体のエンパワメント
（事務的支援等）
（会計、広報、組織基盤強化等）



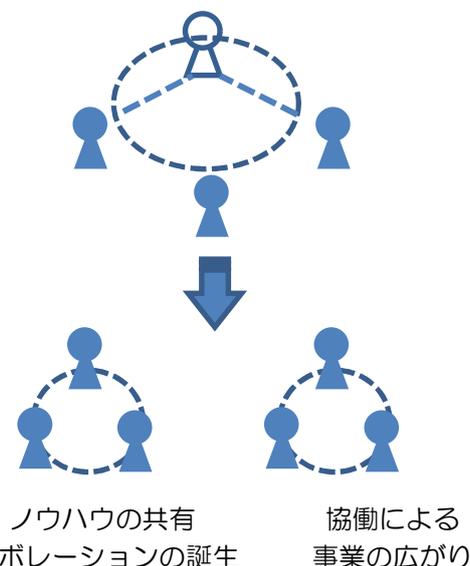
【現状の取組み】（エンパワメント）

- スキルアップ講座
 - ・広報物の作成（チラシ、Web 等）
 - ・組織づくり（人材の獲得・育成、等）
 - ・事業企画づくり
 - ・会計管理、他
- 専門家相談（会計、税務等専門家による助言）
- ◎NPO 事務力検定＋セミナー（自主講座）
- ◎NPO 自主事業として講座等開催（スキルアップ講座のフォローアップ勉強会等）

【現状の取組み】（両方）

- ◎スタッフによる相談（夢の実支援金申請相談等も）
- 夢の実支援金交付団体への外部専門家コンサルティング、フォローアップ
- 利用者協議会、分野別交流会（ネットワークと、団体相互の情報収集による学び）

団体の「つながる」を支援
（場や機会の提供等）
（他団体、市、企業、大学等）



【現状の取組み】（「つながる」を支援）

- ◎ニュースレター、ホームページ
- ハンドブック（団体紹介冊子）
- ◎ボランティア情報サイト（試行制作中）
- 夢の実支援金実施成果報告会
- みのお NPO フェスタ
- ◎山とみどりの市民イベント（箕面市より受託）
- 大学と公開講座を共催、協働実施
- ◎チャリティタウンプロジェクト（寄附つき商品販売等）
- ◎もっとネット会議（市内中間支援事務局連絡会議）
- ◎中間支援ネットワーク（他市）
- ◎まんどろ火祭り（地域団体・事業者と連携）

※ ◎指定管理事業 ●フォーラムみのお自主事業

【今後の取り組みについて】

調査では、箕面で活動するNPOも、常設的（日常的）に事業展開をしようとするNPOと、草の根的に活動を行っていくNPOとがあることが見えた。団体のニーズや方向性もそれぞれの性質によって異なるため、より対象を絞った支援策を企画していくことも必要である。